

高所作業車を起因物（小）とする死亡災害事例（1999-2020年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	業種 （小） コード	事故 の型 コー ド	労 働 者 規 模
1999	2	11 ～ 12	船内での、高所作業車を使用しての塗装作業で、高所作業車の設置場所が傾斜であったために、傾斜下方に暴走し、高所作業車と共に船の内壁に衝突した。	11501	3	50 ～ 99
1999	5	10 ～ 11	電話線引き込み工事で、市道に高所作業車を停車させて道路をまたぐようにブームを伸ばして作業を行っていたところ、ブームの下を通過しようとした4トントラックの荷台上部がブームに接触したため、反動でバケットから転落した。	30301	1	10 ～ 29
1999	6	15 ～ 16	勾配約10度の坂道に高所作業車が停車させて車両の後部でアウトリガーのジャッキ操作をしていたときに、車両が逸走したため後方に停車していた別の高所作業車の後部との間に挟まれた。	30301	6	30 ～ 49
1999	8	14 ～ 15	高所作業車の上で電話回線工事をしていたところ、対向車が来て離合ができないため、作業床から降りてアウトリガーを格納したところ、高所作業車が勾配約8度の林道を後退し地山と高所作業車との間に挟まれた。	30301	6	10 ～ 29
1999	10	14 ～ 15	高所作業車(作業床の高さ12メートル)のバケットに乗って鉄骨のボルト入れ作業を行っていて、作業床の手すりと高さ4メートルの位置にある鉄骨梁との間に胸部を挟まれた。	30201	7	30 ～ 49
1999	12	14 ～ 15	岸壁に接岸したぎ装船の機関室へ溶接用キャプタイヤケーブルを引き上げるため、補助ロープ(重さ約500g)を、高所作業車の機械室上部から高さ約5mのデッキ上にロープを投げたとき、反動でバランスを崩して船	11501	1	1～ 9

			底に墜落した。			
2000	8	22 ～ 23	トンネルの照明用ケーブルの移設で、高所作業車上で作業床を上昇させるためスイッチを入れたときに、トンネル天井と高所作業車の手すりとの間に頭部を挟まれた。	30301	7	10 ～ 29
2000	6	10 ～ 11	コンクリート電柱の建替え工事で、高所作業車(作業床高さ14メートル)に乗り、低圧カットアウトの電圧を確認して電源を投入する作業中に誤って高所作業車から墜落した。	30301	1	1～ 9
2000	8	14 ～ 15	暖房設置工事において、配管作業に必要な部品を取りに下へ降りるため、天井クレーン上から高所作業車の搬器へ移動しようと搬器周囲の手すりに足を掛けたときにバランスを失い、4.9メートル下に墜落した。	30309	1	30 ～ 49
2000	8	12 ～ 13	駅高架橋修繕工事において、落下防護網取付作業を高所作業車を使用していたときに高所作業車の搬器が急上昇し、駅高架橋のコンクリート床板と搬器との間に挟まれた。	30104	7	1～ 9
2000	11	11 ～ 12	新築工事の3階の間仕切りボード工事のロックウール充填作業を高所作業車を使用して行っていたところ、作業車が転倒したため高所作業車の手すりエレベーター機械室の壁面との角にはさまれた。	30203	2	30 ～ 49
2000	3	14 ～ 15	高架橋の修繕工事において、落下防止用のネットを橋脚に設置するため高所作業車がバックしたところ、車輻を誘導していた警備員が高所作業車の後部と橋脚との間に挟まれた。	170201	6	10 ～ 29
2000	6	14 ～ 15	簡易テント倉庫の解体作業において、軽トラックの荷箱を上昇させてその床上で作業中に2.4m下の地面へ墜落した。	11709	1	1～ 9
2000	3	9 ～ 10	照明設備工事に使用していた高所作業車のバケットが建物のボルトに引っかかったので外すためバケットから建物の梁の上(高さ約10m)に降り、安全帯を梁に掛けようとしたときに引っかかっていたボルトとバケットが離れ、はずみで地上に墜落した。	30203	1	10 ～ 29
		9	高所作業車(作業床高さ13.2m)で高架橋の下端部(高さ約8m)にコンク			

2000	1	～ 10	リート剥落防止のためのネットを張る作業で、高所作業車の操作をプラットフォーム型の作業床上で行っていたときに、高架橋の下面と操作盤との間に挟まれた。	30199	7	1～ 9
2000	4	～ 18	17 鉄骨造3階の新築工事において、鉄骨梁に耐火被覆材(岩綿)を吹き付ける 作業を高所作業車(作業床の最大高さ4m)の作業床に搭乗して行っていた とき、高所作業車が転倒し地上に転落した。	30201	2	10 ～ 29
2001	2	～ 15	14 高所作業車に載って高さ約10mの位置で橋梁部材の間隔を計測中に、高 所作業車のバケットから地上に墜落した。	11209	1	30 ～ 49
2001	3	～ 12	11 高架下国道において、高所作業車(ブーム12m)による高架下用照明の配 管の取り替え作業で、配管を撤去したので地上へ降りるため通行規制を していない中央分離帯側の車線の方へブームを旋回した際に、同車線を 12 走行してきた10t貨物自動車(トラック)がブームに接触したため、バケット内の2名 が弾き飛ばされて4m下の道路上に墜落した。	30301	6	1～ 9
2001	3	～ 12	11 高架下国道において、高所作業車(ブーム12m)による高架下用照明の配 管の取り替え作業で、配管を撤去したので地上へ降りるため通行規制を していない中央分離帯側の車線の方へブームを旋回した際に、同車線を 12 走行してきた10t貨物自動車(トラック)がブームに接触したため、バケット内の2名 が弾き飛ばされて4m下の道路上に墜落した。	30301	6	1～ 9
2001	4	～ 12	11 電話線接続端子管の取替工事において、高所作業車を次の作業箇所へ移 動するため一旦ブームを降下させて地面に降り警備員がアウトリガーを 格納するため車体側面の操作レバーを操作したところ、車体左側のアウ トリガーのみ格納したため車体が傾きブロック塀との間に挟まれた。	170201	7	10 ～ 29
2001	8	～ 10	9 高さ5mの鉄骨梁に取付けられた胴縁の位置を変えるため、高所作業車 (揚程12m)に乗り高さ4.7mの位置で作業中に作業床から墜落した。	30201	1	10 ～ 29
2001	9	～	11 高所作業車で船体ブロックの塗装作業を行っていて、船体ブロックから 突き出ているハッチカバー開閉装置と高所作業車の作業床に設置された	11501	7	10 ～

		12	操作部の覆いとの間に胸部をはさまれた。			29
2001	10	3 ～ 4	高速道路のtネル内部清掃作業を高所作業車で行い、作業終了後、トラックをバックさせながら作業場を区切っていたパイロン(三角錐のバリケード)を積みながら高所作業車もバックさせていたとき高所作業車の後で誘導していた者をひいた。	150109	7	30 ～ 49
2002	2	13 ～ 14	高所作業車2台でケーブルテレビの架線工事中、後方の高所作業車がアウトリガーを出したまま前方の高所作業車の前へ出ようと追い抜いた時に、前方の高所作業車の右後方で作業を行っていた者にアウトリガーが激突し、転倒したところへ後方の高所作業車の左後輪で頭部を轢いた。	30199	17	1～ 9
2002	2	11 ～ 12	スタンドの工事現場内で天井部分に空調ダクトを設置する作業中、天井デッキ近くまで上昇した高所作業車の作業床で倒れていた。	30201	7	10 ～ 29
2002	7	9 ～ 10	高所作業車で船舶に移るためドックの約1m手前に停車し旋回しようとしたところ、急発進したため2.5m下のドックに墜落した。	11501	1	30 ～ 49
2002	8	10 ～ 11	現場に行くため高所作業車で走行中、左前方を走っていたミニバイクが急に右折したので衝突を避けるため右にハンドルを切ったときに、高所作業車が対向車線を蛇行してバス停、電柱等にぶつかり、最後に道路より2mほど低い位置に建っているマンションに突っ込んだ。	170209	17	10 ～ 29
2002	8	5 ～ 6	J R 駅前の清掃作業で使用していた伸縮ブーム型高所作業車（最大地上高9.9m）のバケットにワイヤー掛け、別の小型の垂直昇降型高所作業車（最大地上高4m、200kg）を4tトラックに載せようと吊り上げたときバランスを崩し、乗っていた労働者が投げ出された。	150109	1	10 ～ 29
2002	10	16 ～ 17	台風により電線にかかった樹木を取り外すため、高所作業車で電線にかかった樹木にロープを掛けて引っ張っていたところ、ロープが切れてその反動でバケットが揺れ約8m下のアスファルト地面に墜落した。	30301	1	1～ 9
		16	橋梁下部耐震補強工事のつり足場架設作業において、高所作業車による			1～

2002	9	～	17	つりチェーンの修正作業を終えたので高所作業車を片づけようとして操作を誤り、橋梁の桁とバケットとの間に頭部を挟まれた。	30105	7		9
2002	11	～	11	10 光ファイバーケーブルの設置工事において、高所作業車を設置箇所である電信柱横へバックで移動させていたときに、高所作業車の後方で誘導を行っていた警備員がひかれた。	170201	17		50 ～ 99
2003	1	～	15	14 高速道路高架橋の床板補修工事で、高所作業車に乗って床板下面のブラスト作業をしていたところ、突然高所作業車のかごが上昇し、かごの手すりとはさまれた。	30199	7		1～ 9
2003	1	～	11	10 建造中の新造船の船尾左舷外板部分の塗装作業で、高所作業車を移動のため後退させていたところ、新造船船尾左舷の鉄製ハッチが開いているのに気づかず、鉄製ハッチと高所作業車の操作盤との間に胸部をはさまれた。	11501	3		10 ～ 29
2003	5	～	14	13 高所作業車をトレーラーで搬送するため、トレーラーの後部に専用の道板を取り付け、高所作業車を運転して道板を登っていたところ、高所作業車のクローラが道板で滑って道板から外れて約40cm落下し、そのときに運転席から投げ出されて頭部より落下した。	80409	1		10 ～ 29
2003	8	～	17	16 村道上の電話線引き込み作業の準備のため、高所作業車（バケット車）を坂の方向に向けて停車させ後部アウトリガーの張り出しを行っていたときに、高所作業車がバックしてきたためガードレールと高所作業車との間にはさまれた。	30301	7		1～ 9
2003	10	～	12	11 照明配管工事において、高所作業車の作業床で2名が作業を行っていたところブームの動作がおかしいのでエンジンを停止し、その後、隣で同じ型の高所作業車で作業を行っていた者に下から操作してくれるよう頼んでエンジンをかけたときに、ブームが伸びて作業床から下をのぞき込んでいた者が作業床の手すりとはさまれた。	30301	7		0
			10	住宅の電気引き込み線を交換する工事において、作業場所に高所作業車を設置するため、車体後方に備え付けられているエンジン始動用スイッ				1～

2004	8	～ 11	チを入れたところ、突然高所作業車が前方に走り出し、高所作業車の前で工事の準備作業を行っていた被災者が巻き込まれた。	30301	7	9
2004	3	14 ～ 15	事業場建屋の外部配管の塗装作業中、高所作業車のバケット操作を誤り、地上から高さ5mの配管とバケット手すりに挟まれた。	30209	7	1～ 9
2004	8	～ 14	公道上で高所作業車を運転していた際、下り坂の路肩に停車し降車したところ、車両が動き出したので、車両を追いかけ運転席に乗り込もうとしたときに、車両とともに転落し、横転した車両の下敷きとなった。	30301	6	10 ～ 29
2004	12	0 ～ 1	下り坂道路（傾斜角4度）に、車体後部を下り側に向けて据え付けられた高所作業車（作業床の高さ26m）のジャッキポストを戻し、タイヤが接地した時、同高所作業車が後進を始め、後部（下り側）でジャッキポストを操作していた被災者が、車体下部に巻き込まれた。	30105	7	10 ～ 29
2004	12	～ 9	8 駐車場に逸走防止のためアウトリガーでジャッキアップして駐車させていた高所作業車に軽油燃料を入れるため、ジャッキを下げたところ車両が後進して車両後部と隣接地の土止めブロックの間に挟まれた。	170209	6	1～ 9
2004	6	16 ～ 17	伸縮ブーム型高所作業車のブームシリンダーの補修作業中、ブームの降下を防止するため、鋼管パイプ（外径50mm、長さ850mm）1本をブームのジャバラとジャバラの間に設置し、シリンダーホースを取り外したところ、鋼管パイプが折損し、被災者が挟まれた。	11702	7	10 ～ 29
2005	5	～ 20	林道のぬかるみにはまった高所作業車を救出し終えた被災者が当該高所作業車から下車した際、当該高所作業車が坂道を無人の状態で行き始めたため、これを停車させようとして被災者が追いかけたところ、当該高所作業車が道路脇の斜面に乗り上げ横転し、右側面にいた被災者が下敷きとなった。	40409	17	1～ 9
2005	11	16 ～ 17	高所作業車のブーム及びバケットを車体に格納して、バケットから降りる際に誤って転落した。	30301	1	10 ～ 29

2005	10	18 ～ 19	停車中の車の輪止めを外して車両の助手席に乗り込もうとしたところ、傾斜地に止めていた車両が動き出し、動きだした車のドアが電信柱にぶつかり、車体とドアとの間に挟まれた。	30301	17	0
2005	8	0 ～ 1	発泡スチロールを処理する機械の移設作業中、高所作業車に乗り、配管作業をしようとしていたところ、既設の梁と高所作業車の作業床との間に挟まれた。	30302	7	30 ～ 49
2006	2	15 ～ 16	炉体冷却水補給配管への空気抜き配管取付け工事のための事前調査で、高所作業車を操作し地上に戻ろうとした際、デッキに衝突し挟まれた。	30309	7	10 ～ 29
2006	3	14 ～ 15	既存住宅の電気引込み線の張替工事等を行っていたが、張り替えた引込み線に木の枝が当たる為、高所作業車を使い枝払いを行った。その後落とした枝が隣地のコンテナ上にあったため、片付けようと高所作業車のゴンドラを近づけゴンドラからコンテナ上に乗り移ろうとした際、約3m下のコンクリート地面に墜落した。	30301	1	1～ 9
2006	6	7 ～ 8	坑内のテンバからの漏水対策の防水シートの保守作業を12m用の高所作業車に2名搭乗して作業中、同じ坑内の斜路の上部に待機していた生コン車（無人）が突然斜面を動き出し作業中の高所作業車に激突。その反動でカゴから2名とも振り落とされ、約8m下の地面に墜落した。	30102	1	10 ～ 29
2006	6	11 ～ 12	被災者は、工場解体現場で高所作業車の運転者と共にバスケット内に搭乗し、工場の壁材である石綿含有スレート建材の撤去作業を開始しようとしていた。運転者はバスケットを上昇させる直前にエンジンをかけたまま、被災者を残して離れたが、その後に被災者が当該バスケットと梁（地面からの高さ4メートル）の間に上半身を挟まれているのが発見された。	30309	7	30 ～ 49
2006	6	6 ～ 7	ケーブルテレビの布設の夜間工事を行い、作業が終了したので、自社へ戻るため、高所作業車（自社所有）に労働者2名が乗車して走行中、高所作業車が大型トラックに追突し横転、更に中央分離帯に衝突した。高所作業者の助手席側に乗車していた者が死亡、運転席側の者が負傷。	30301	17	1～ 9

2006	9	15 ～ 16	海上ブイの塗装作業を行っていた被災者が、同僚労働者の操作する伸縮ブーム型式の高所作業車に搭乗し、横置きしたブイ上部にバケットを近付けて乗り移ろうとしたところ、突然バケットが水平に左90°回転し、バランスを崩した被災者が約6m下の地面に墜落した。	11209	1	1～ 9
2006	10	3 ～ 4	被災者外3名は産業廃棄物を産業廃棄物ボックスに廃棄しようとした。しかし産業廃棄物ボックスの横約40センチメートルの位置に高所作業車が駐車しており、廃棄に支障をきたしていた。そのため、高所作業車を前進させてさせようとしたところ、路面の傾斜により高所作業車が後退し、被災者に激突。高所作業車と産業廃棄物ボックスの突起部に挟まれた。	30201	6	1～ 9
2006	10	10 ～ 11	高所作業車のアウトリガーを格納していたところ、前輪側を格納している途中に高所作業車が坂下側へ逸走し、そのまま道路から法面下へ転落した。その際にガードマン（被災者）が転落した高所作業車の下敷きとなった。	170201	6	10 ～ 29
2006	10	1 ～ 2	橋脚の下側車線を通行規制しモノレール線軌道桁の落橋防止装置を取り付けるために設置した吊り足場を高所作業車で解体作業中、被災者がバケット内で運転し、橋脚に付いているガムテープを剥がす為、旋回して近づこうとしたが、通行規制の外へ出るため、反対に旋回しようとしたところブームが起き上がり、軌道桁とバケットの手摺に挟まれた。	30105	7	1～ 9
2006	12	11 ～ 12	高圧電線の張替え工事において、被災者は高所作業車のバケット内で本線の誘導作業を行っていた。古い線と新しい線を結ぶためのワイヤと古い線との結び目が延線ローラー部に引っかかり、結び目がほどけて、被災者が緊張の解けた新しい線にひっぱられてバケットから約11m離れた位置に墜落した。	30301	1	10 ～ 29
2006	11	8 ～ 9	建造ドック内で製造中のLNG船内で、被災者が、レールに乗せていた高所作業車を運転していたところ、当該高所作業車がレール端部のストッパーを乗り越えたため、レールから脱輪し、高所作業車とともに床に転落した。	11501	1	300 ～



2007	3	9 ～ 10	被災者は、牛舎の新築工事現場において、垂直昇降型の高所作業車から地上より高さ4.9mの鉄骨横梁に乗り移ろうとしたところ、墜落した。	30201	1	1 ～ 9
2007	7	14 ～ 15	休憩後、次の作業現場へ向うため、高所作業車で国道を直進中、運転操作を誤り対向車線にはみ出し、対向してきた軽トラックと衝突した。	30301	17	10 ～ 29
2007	12	17 ～ 18	電話回線の故障復旧作業のため、被災者が高所作業車のバケットに乗り、建物（コンテナ型店舗）軒下で作業中、バケットが上昇し、建物との間にはさまれ死亡した。	30301	7	1 ～ 9
2007	12	14 ～ 15	被災者は高所作業車で水銀灯の取り付け作業を行っていた。休憩にするよう指示を受けたため、高所作業車のバケット内で操作を行っていたところ、建物の梁とバケットにはさまれた。	30301	7	1 ～ 9
2007	10	16 ～ 17	プレハブ建築物を解体作業中、高所作業車の作業床に載せたパレット上（地上高さ2.8m）で作業していた作業者が、撤去したトラス梁を地上に降ろそうとした際、墜落した。	11701	1	10 ～ 29
2007	12	11 ～ 12	飲食店等の看板の保守点検を行う事業場の作業員2名が、計2店舗の既設看板の修理を高所作業車を使用して行った後、事業場へ戻るため、片側3車線の高速道路を走行中、追越車線を走行していた高所作業車が中央分離帯に接触、はずみで道路左側のガードロープに激突し横転、助手席の被災者が死亡し、高所作業車を運転していた同僚が負傷した。	170209	17	10 ～ 29
2007	11	13 ～ 14	地下二階搬入路において、被災者は、高所作業車に乗り高さ4.55mの位置で配管作業中に配管用ブラケット架台と高所作業車の手すりにはさまれた。	30203	7	1 ～ 9
2007	6	23 ～ 24	サーキット場を走行する高所作業車の搬器に乗りコースを撮影中、コースに設置された橋に搬器が激突し、搬器から墜落した。	120102	1	100 ～ 299
		15	天井にボードを設置する作業を行うために、被災者が高所作業車2台を			1 ～



2008	9	14 ～ 15	住宅のケーブルテレビの雷障害を調べるため、被災者は付近の市道で路面がやや傾斜している場所に高所作業車を停めてアウトリガーを張り出し設置した。被災者は、作業車のサイドブレーキを掛け忘れたため、作業車がゆっくり後退し始めた。被災者は、あわてて作業車の後方にある操作盤で止めようとしたが間に合わず、作業車と被災者の後方に駐車してあった乗用車に体をはさまれて死亡した。	30301	7	1～ 9
2008	1	10 ～ 11	撤去ガラを片付けるため、高所作業車にガラをのせてピット内を移動中、床の段差（高さ500mm程度）で脱輪して作業車が被災者と共に転倒したため、設置してあったコンベヤーとの間にはさまれ死亡した。	30201	2	30 ～ 49
2008	7	10 ～ 11	作業員2名により高所作業車を使用して工場内の内壁のボード張替え作業を行っていた。被災者がバケット内から高所作業車を操作してボードを荷揚げした後、固定用ビスがないことに気付き、地上に降りようと高所作業車を操作したところ、バケット動作の不具合によりバケットから放り出されて7m下の床に墜落した。	30201	1	10 ～ 29
2008	3	10 ～ 11	300tジブクレーンの組立て作業のため、高所作業車の作業床に乗り当該クレーンの基部上の機械室底部のボルト締めを行っていたところ、作業床の操作盤のガードとボルト締めを行っていたH型鋼との間にはさまれて死亡した。	11209	7	100 ～ 299
2008	2	15 ～ 16	工場建屋内のH鋼製天井梁に送風ファンを取り付けるため、爪状のアタッチメントを装備した建設機械にチェーンブロックを介して当該ファンをつり上げた。高所作業車のバケットに搭乗した被災者は、送風ファンの位置調整を行っていた。その際、アタッチメント部に取り付けていたチェーンブロックが外れて送風ファンが落下した時、バランスを崩して被災者が約5mの高さから墜落して死亡した。	10805	1	100 ～ 299
2008	10	14 ～ 15	被災者が引込バケット車（高所作業車）でアウトリガーのジャッキアップによる車両設置作業を行っていた（16度の勾配地）。そのとき引込バケット車付近で異常音がしたため、近くで作業していた作業員が振り向いたところ、被災者が引込バケット車と後方に停車していた運搬車の間	30301	7	50 ～ 99

			にはさまれ死亡していた。			
2009	12	14 ～ 15	被災者は、市場青果棟内において、高さ9.28mの天井に設置してある照明機器（水銀灯）の清掃作業を高所作業車のバケットに乗り行っていたところ、バケットと天井の鉄骨梁の間にはさまれ死亡した。	30301	7	30 ～ 49
2009	9	11 ～ 12	製鉄所構内の高炉から発生したBガス（一酸化炭素を含む副生ガス）配管の更新工事において、フレアスタックへの配管切換作業用の足場を組み立てるため、既設配管の架台上に200mmのH鋼材を仮置き固定したので、被災者が高所作業車の作業床を後方に水平移動させたところ、仮置きしたH鋼材と高所作業車の操作盤囲いとの間にはさまれた。	30309	7	10 ～ 29
2009	1	15 ～ 16	鉄骨造2階建建築工事において、2階部分の柱の接続作業を行うにあたり、移動式クレーン（つり上げ荷重50t）で2階柱材をつり上げ、接続部分を2台の高所作業車（作業床高さ18m）の作業床にそれぞれ乗った2人がボルト締めにて固定していた。被災者は、高所作業車の作業床に乗り自ら操作をして作業床を接続作業箇所を上昇させていたとき、上部に既に設置していた大梁に気付かず、この大梁と作業床にはさまれた。	30201	7	10 ～ 29
2009	9	12 ～ 13	トンネル坑内において、被災者が高所作業車の作業床に乗って、一人で風管設置のためのアンカーの取付け作業を行っていたが、他の作業者がその作業場所を通り過ぎ、切羽で作業を確認して戻ってきたところ、被災者が作業床の手すりや測定器設置のための架台の間にはさまれていた。	30102	7	30 ～ 49
2009	11	10 ～ 11	高所作業車を使用し、工場天井付近の梁、筋かい等にハト避け剤を塗布する作業を行っていたところ、バケットを寄せすぎたため、筋かいとバケットの手すり部との間で運転士がはさまれた。	170209	7	1～ 9
2009	12	10 ～ 11	高所作業車を使用してブラケット足場の解体作業を終え、場所を移動するため一度作業床を格納するため移動中に操作を誤り、上部のPC桁の底板と高所作業車作業床内操作盤のガードパイプの間にはさまれた。	30105	7	10 ～ 29
			災害発生事業場の上司を含む4人でジェットコースターの線路の橋脚（支柱）の塗装を行っていた（作業初日）。被災者2人は高所作業車を			

2009	3	11 ～ 12	用いて作業を行っていたところ、高所作業車がバランスを崩して高所作業車上で作業をしていた2人とともに転倒した。作業直前に高所作業車で作業をしていた箇所の高さは約12.5mで、高所作業車設置場所の地盤の傾斜角は約10度～15度であった。	30309	2	1～ 9
2009	3	11 ～ 12	災害発生事業場の上司を含む4人でジェットコースターの線路の橋脚（支柱）の塗装を行っていた（作業初日）。被災者2人は高所作業車を用いて作業を行っていたところ、高所作業車がバランスを崩して高所作業車上で作業をしていた2人とともに転倒した。作業直前に高所作業車で作業をしていた箇所の高さは約12.5mで、高所作業車設置場所の地盤の傾斜角は約10度～15度であった。	30309	2	1～ 9
2010	3	10 ～ 11	高所作業車に乗って電柱に支線を張る作業において、重みで垂れ下がった支線が現場付近を走行していた運送車に引っかけられたため、作業をしていた被災者が引っ張られ、高所作業車から約8.6m下の道路に墜落したもの。なお、保護帽は正しく着用していたが、安全帯は腰に付けていただけでフックをバスケットに取り付けていなかった。	30301	1	10 ～ 29
2010	6	11 ～ 12	午前の作業を終え、同僚が車両（高所作業車）を運転し道路脇に駐車した。被災者はその前方で昼休憩のためビニールシートを敷く等の準備をしていた。同僚は駐車ブレーキをかけ、車止めをするために車両を降りたところ、駐車ブレーキが不十分だったため車両が勾配（約5度）に沿って走り出した。このため、被災者は車両にひかれ、車両と道路の路肩の法面にはさまれ死亡した。	30301	7	1～ 9
2010	8	10 ～ 11	牛舎の増築工事における屋根部の作業において、被災者はタイトフレーム（屋根下地の波形の部材）を溶接で取付けるための事前作業である屋根梁部（H鋼）への墨出し作業を高所作業車により行っていたが、自走（クローラ式）により高所作業車のバケットを下降させずに走行させ梁間の移動をしていた際に、進行方向の確認不足により被災者の背部に接近していた梁に気付かず、梁とバケットの手摺の間に首を挟まれ被災したものの。	30209	7	1～ 9

2010	12	13 ~ 14	電線に係る木の枝の伐採が完了した為、坂道に停めていた高所作業車を移動しようとしたが、進行方向に邪魔になる枝があり、バケット内の操作装置でバケットの90度首振り操作をした。高所作業車後部の操作装置でアウトリガー格納後、車外から運転席のPTO（走行と架装部操作の切替）レバーを「走行モード」にした直後、高所作業車が逸走し、坂下で監視作業中の被災者が作業していた高所作業車の間に挟まれ死亡した。	30301	7	1~ 9
2010	12	4 ~ 5	被災者1名で道路灯水銀球の球切れの取り替えを高所作業車を用い、道路上に配置（片側2車線の走行1車線側）、作業台を走行2車線側の上空3.7m付近に旋回して作業を行っていた時、走行2車線側を走行してきた10tトラックの荷台前方に作業台が激突され、作業台から振り飛ばされ、道路上に墜落死亡したもの。安全带と保護帽を使用していなかった。	170209	17	1~ 9
2011	12	14 ~ 15	受電設備から新設工場へ電線を引き込むため、ケーブルラックの取付を被災者1名で高所作業車を使用しながら行い、作業床を高さ約4.8mのまま次の位置まで移動したところ、ケーブルラック基礎部分に乗り上げ、高所作業車ごと転倒し、建屋壁に頭部を激突させ、被災日翌日の午前5時48分に、脳挫傷及び硬膜下血腫により死亡した。	30301	2	1~ 9
2011	11	8 ~ 9	物流会社のテント倉庫で、高所作業車を使って屋根の補修作業を行っていたところ、作業員が誤って作業車から転落した。クローラ式高所作業車に乗って屋根の軒先でテント用シートをロープで固縛する作業をしていたが、何らかの原因で高所作業車が転倒し、誤っておよそ7.5メートルの高さから道路へ転落したもの。11月12日収容先の病院で死亡した。	30209	1	1~ 9
2011	11	14 ~	下請事業場が緩やかな傾斜の林道で高所作業車を使用して電話線敷設作業を行っていたが、作業終了後高所作業車を移動させるために高所作業車の運転者が逸走防止のために設置してあった輪止めを撤去した後、高所作業車のアウトリガーを格納しようとしたところ、高所作業車が後退	170201	7	30 ~

		15	したため、交通誘導していた被災者も加わって手で車を止めようとしたが、危険を感じ退避しようとした時、被災者が転倒し車と地面との間に挟まれ死亡した。			49
2011	12	12 ～ 13	被災者と高所作業車の運転者の2名が作業床に乗り建物外壁等の清掃作業を行っていたところ、作業床の下の道路にトラックが来たため、高所作業車の運転者がトラックを通そうと、作業床を上昇させたところ、身を乗り出して清掃作業をしていた被災者が作業床の手すりと建物の出窓の下面部との間に挟まれたもの。	130301	7	10 ～ 29
2012	11	20 ～ 21	工事現場から高所作業車で会社に戻るため高速道路を走行中、雨で路面が濡れていたため、後輪がスリップして左側のガードレールに衝突後、横転し、被災者（運転手）が死亡した。	30301	17	1～ 9
2012	4	2 ～ 3	被災者は立体横断施設施工現場にて、横断デッキ下部の電気ケーブルを高所作業車を用いて手工具で寄せる作業を行っていたところ、横断デッキ（桁下）と高所作業車のバケットとの間に挟まれた。消防のレスキューが救出し、救急搬送したものの死亡が確認された。	30106	7	1～ 9
2012	9	15 ～ 16	光ケーブル引き込み作業において、約8度の傾斜の道路で登り方向に対し前進で高所作業車を配置した。サイドブレーキを引き、全輪に車止めをし、高所作業車の後部の操作盤により後方のアウトリガーを張り出していたところ、後部車輪が浮いた瞬間に高所作業車が後方へ滑り出した。アウトリガーを操作するも止まらず、はさまれる間際まで退避しなかった被災者は、高所作業車と後方の電柱との間に挟まれた。	30301	7	50 ～ 99
2012	3	16 ～ 17	作業床の高さが約10mの高所作業車を用いて公園の高木の剪定作業を行っている際、当該高所作業車が被災者を乗せたまま転倒した。	60101	2	1～ 9
2012	3	16 ～ 17	作業床の高さが約11mの高所作業車を用いて公園の高木の剪定作業を行っている際、当該高所作業車が被災者を乗せたまま転倒した。	60101	2	1～ 9

2012	2	5 ～ 6	道路交通信号の改修工事が終了し、高所作業車を運転して事業場倉庫へ戻るため県道を走行中、道路脇の田に高所作業車ごと転落した。	30301	17	1～ 9
2012	11	11 ～ 12	伐採業務において、雑木林内でクローラ式自走式高所作業車（最大高さ12.1m）を使用して高さ10m以上の位置で大木の枝切り作業中、高所作業車がブームを伸ばした状態で転倒し、バスケットに乗っていた被災者が地面に投げ出された。	30199	2	1～ 9
2012	7	11 ～ 12	工場の溶解室内で高所作業車を用いた天井ダクトの取り付け作業において、高所作業車のかごの手すり部分に足をかけてダクト上部の固定作業を行っていたところ、約10m下のコンクリート床面に墜落し、死亡した。	30203	1	1～ 9
2012	7	19 ～ 20	被災者は高所作業車を操作し、ケーブルテレビ線の引き込み作業を単独で行っていた。引き込み作業の終了後、当該高所作業車のアウトリガを収納する作業をしていたところ、高所作業車が突然動き出し、約30m逸走した後、道路脇の2階建て家屋に激突した。この時、被災者の上半身は運転席に入っていたため、運転席ドアが家屋にぶつかったことにより、運転席ドアと運転席に上半身を挟まれる形で被災した。	110101	7	1～ 9
2012	2	8 ～ 9	被災者は、枝切り作業のため傾斜面に高所作業車（積載荷重：150kg、作業床の最高高さ：9.9m）及び積載型トラッククレーンを停車させ、作業準備のために高所作業車の後方側アウトリガーを張り出した際、当該作業車が斜面を下る方向に突然動き出し、トラッククレーンとの間に挟まれた。	10909	7	1～ 9
2013	8	16 ～ 17	被災者は、5階建て建物の3階スラブ上で高所作業車（作業床が垂直方向にのみ上昇・下降するもの。）に乗り、高さ約6メートルの場所にある鉄骨の錆止め塗装等の作業に従事していたが、作業場所を移動する際、高所作業車の作業床を一旦降下させるべきところ、操作を誤り、作業床を上昇させてしまい、頭上にあった鉄骨梁と高所作業車の手摺との間に頸部を挟まれた。	30201	7	1～ 9



2013	2	6 ～ 7	作業終了後、リース会社まで高所作業車（作業台高さ19.5m）を上 席者が運転して返却しに行く途中、路上脇に停車していた10トント ラックに激突、助手席に座っていた労働者が死亡した。	30309	17	30 ～ 49
2013	1	16 ～ 17	高所作業車（自走式バケットクローラ）を使用して、高さ約10mの箇 所で作業員2名（うち1名はオペレーター）が外壁の塗装補修を行って いたところ、高所作業車が転倒した。その際、高所作業車の作業床であ るバケットが踏切の鉄柱に激突した。塗装作業を行っていた1名は自力 で脱出したが、もう1名のオペレーターはバケットの手すりと鉄柱に挟 まれ、救出後搬送先の病院で死亡が確認された。	170209	2	100 ～ 299
2013	5	10 ～ 11	電柱の先端付近にある金具の点検補修のために、作業員2人で道路上 （坂道）に高所作業車を設置する段取り作業を行っていたところ、バ ケットを動かすことができないといったトラブルが生じたが、それを解 消するために、いろいろ試みていた最中に、同車両が逸走した。被災者 はそれを止めようとして、同車両の後部において支えようとしたが、側 溝に足を取られ仰向けに転倒し、アウトリガーと側溝の間に腹部を挟ま れ死亡した。	30301	7	50 ～ 99
2013	4	16 ～ 17	被災者は、光ケーブルの接続作業を行うため、高所作業車を空地に止め て作業箇所である電柱の確認をしようとしたところ、高所作業車が被災 者に向かって逸走してきたため、手で止めようとしたが、高所作業車を 止めきれずに轢かれた。尚、空地は前の道路に向かって約15度の傾斜 があり、道路は約9度の傾斜があった。	30301	7	1～ 9
2014	11	14 ～ 15	被災者が高所作業車を使用し、屋根垂木の釘打ちによる固定作業中、同 僚によって高所作業車の作業床から上半身を前のめりにし胸腹部で操作 盤を押しつけるようにして、肩と背中を建物の鉄骨構造材に挟まれ、出 血し、意識のない状態の被災者が発見された。	30201	7	1～ 9
2014	9	13 ～	電線の引き込み工事中、被災者が高所作業車の運転席のドアを開け、高 所作業車の外から上半身のみ運転席に入り、エンジンをかけたところ、 高所作業車が前方に動き出し、高所作業車のドアが電柱に衝突。衝撃で	30301	7	1～ 9

		14	閉じたドアと高所作業車の間に挟まれた。			
2014	5	9 ～ 10	信号機の電球取替え作業中、高所作業車のかご内で作業を行っていたところ、走行していたウイングボデーのトラックが高所作業車のブームに衝突し、衝撃で被災者がかごから外に投げ出され、約4m下の道路上に墜落した。	30301	1	1～ 9
2014	5	13 ～ 14	高所作業車で天井クレーンのホイストの走行車輪4個の交換作業中、被災者は、作業の補助をする為、高所作業車座席上の天板上に上がり、上部レバースロックを緩めようと手を伸ばしたところ、足を踏み外し、約2.3m下のコンクリート床上に落下し、頭部を負傷し、死亡した。	11301	1	1～ 9
2014	5	16 ～ 17	高所作業車を使用し、鉄骨貫通部にロックウールを詰める作業中、被災者が高所作業車の手すり部分と、躯体鉄骨に挟まれているのが発見された。	30201	7	10 ～ 29
2014	3	10 ～ 11	工場建設現場にて、内装の配線作業を行っていた被災者は、高所作業車の手すり部と上部配管ラックに首、胸部付近を挟まれた。	30201	7	10 ～ 29
2014	3	9 ～ 10	高所作業車のバスケットに乗り、バスケット内の作業装置を操作し、ブームの伸縮等の操作を行っていたところ、作業装置の運転を誤り、バスケットの手すりと天井の梁との間に、頸部を挟み、死亡した。	30209	7	1～ 9
2014	2	11 ～ 12	高所作業車のアウトリガーを格納中、被災者はアウトリガーと、車体との間に頭部を挟まれた。	30301	7	30 ～ 49
2015	4	0 ～ 1	樹高約17メートルのクスノキの剪定作業中、高所作業車の作業床が届かない頂部付近を剪定するため、当該樹木の高さ約12メートルの箇所作業床を横付けして樹木に乗り移り剪定作業を行ったが、当該作業終了後、樹木から作業床に戻る際、高所作業車の作業床に足を掛け乗り移るときに作業床が大きく揺れ、その反動で11.6メートル下の歩道上に墜落し死亡したもの。	60101	1	1～ 9

2015	3	15 ～ 16	ロックシェットの内部にある照明装置にかかる改修工事において、高所作業車を運転していた被災者が、当該高所作業車を前進させるためにアウトリガーを収納したところ、車が後退した。被災者は動き出した車を止めようとして並走したが、その間に車に激突され、転倒した。	30301	6	1～ 9
2015	3	18 ～ 19	被災者は、工事現場からの帰りに翌日使用予定の高所作業車をリース会社に寄って借り、これを運転して会社へ戻るため運転中、高さ制限のある陸橋下を走行していた際、作業車上部がボックスカルバートに激突し、その反動でハンドルに胸部を強打し内臓損傷等を負った。事故後入院加療中であったが4月19日に死亡した。	30301	17	10 ～ 29
2015	9	11 ～ 12	引越作業において、ビル4階の窓から、高所作業車を使って荷の段ボール箱（中身は書類など）を地上に搬出していた。バケットの中央部に乗っていた被災者は、19個の段ボール箱と共に、地上へ下りる操作を始めた。ビル3階窓付近の高さ6メートル10センチあたりまでバケットを下ろしたところ、荷崩れを起こし、被災者は荷と共にバケットから地上へ墜落したものの。	40301	1	10 ～ 29
2015	9	9 ～ 10	国道の陸橋の調査業務において、被災者は、高所作業車の作業床の上に乗り、橋梁の（コンクリート）床板の（打音）検査を行い、それが終了したため、隣接区間に高所作業車を移動させようとした。そして、被災者が、高所作業車を操作したところ、被災者の頸部が高所作業車の作業床の手すりと橋梁の床板との間に挟まれたため、病院に搬送したが、（4日後の）9月19日（午後1時45分）に死亡した。	170209	7	1～ 9
2016	8	3 ～ 4	高速のトンネル内で片側2車線のうち左側車線を規制して、高所作業車の作業台に3名が乗車して、作業を行っていたところ、右側車線を走行中の3トントラックが高所作業車作業台に衝突し、その反動で作業員2名が道路上に墜落した（墜落高さ約4メートル）。	30309	1	10 ～ 29
2016	3	10 ～	被災者は本件事業場の車両置場（完成品置場）において、高所作業車（作業床の高さ27メートル、積載荷重200キログラム）の点検のため、作業床に乗り、ブームを起伏（80度）してブームの伸縮状況を確認	80409	1	1～

		11	認していたところ、ブームを最大限に伸ばした高さ27メートルから地上に墜落し、死亡した。			9
2016	2	12 ～ 13	電柱建替工事の応援に行くため、事業場から高所作業車を1人で運転し、国道を走行していたところ、吹雪のため減速運転していた大型トラック（箱車）に追突し、同日死亡した。	30301	17	10 ～ 29
2016	1	15 ～ 16	公園内樹木伐木作業のため、高所作業車の搬器を昇降させた際、当該機械が転倒し、搬器に搭乗していた労働者2名が搬器外に投げ出された。	60101	2	1～ 9
2017	12	14 ～ 15	高所作業車（トラック式スーパーデッキ）2台を使用して、隧道補修のための帯鋼板設置作業を行っていた際、作業箇所変更のため、高所作業車の運転者である被災者が、サイドブレーキをかけ、左後輪に車輪止めを置き、アウトリガーを操作していたが、アウトリガーのジャッキを上げたところ、高所作業車が逸走し、もう一台の高所作業車との間に被災者が挟まれた。	30102	7	1～ 9
2017	7	16 ～ 17	コンテナ船内で高所作業車を用いて塗装作業中の作業者が、高所作業車ごと5m下のホールド内に転落し、被災した。	11501	1	10 ～ 29
2017	6	12 ～ 13	被災者とオペレーターの2名で高所作業車を使用し、ホテル南面の外壁の修繕をしていたところ、搬器の底部が外壁と接触して動かなくなった。そのため、被災者が搬器の外に出て接触箇所を確認しようとしたところ、バランスを崩し約20メートルの高さから墜落した。	30209	1	1～ 9
2017	6	8 ～ 9	飼料バラ出荷場において、天井に仮付された安全柵の本溶接を行うため、被災者含めて3名が、各人それぞれ高所作業車に乗って3箇所に分かれて作業を行っていた。作業中Aが作業の途中、横のエリアを担当していた被災者に作業を行っている様子が無かったため、不審に思って近づいたところ、安全柵と高所作業車のバケットの間に挟まれている被災者を発見、心肺停止で病院に搬送されたが、同日死亡した。	30309	7	30 ～ 49

2017	2	16 ～ 17	被災者は、高所作業車による作業終了後、高所作業車に取り付けられたタラップを使用して地上に降りる際に、高さ1.2m付近のタラップを踏み外し、コンクリート製地面に転落し、頭を地面に強打した。	30309	1	1～ 9
2018	12	18 ～ 19	台風で破損した倉庫屋根の端部に取り付けられた部材交換作業終了後、同僚とともに屋根上から高所作業車のバスケット部に乗り移り、被災者が運転し地上に移動しようとしたところ、高所作業車が動かなくなり、被災者が状況確認のため、バスケット部から屋根上に移動しようとしたところ、突然、高所作業車が動き出して24メートル下の地面に墜落した。	30201	1	1～ 9
2018	10	12 ～ 13	つり足場の撤去作業に使用した橋梁点検車を運転して林道を走行中、緩いカーブで車両が横転し、ガードレールに衝突したもの。	30199	17	1～ 9
2018	9	14 ～ 15	被災者は、地上約8メートルの高所作業車の作業床で鉄骨ボルトの本締め作業を1名で行っていた。休憩を終えて現場に戻った塗装工が、高所作業車と鉄骨の間に頸部がはさまっている被災者を発見した。被災者は、すぐに救出され、ドクターヘリで病院に搬送されたが、翌日の入院中の病院で低酸素脳症により死亡が確認された。	30201	7	10 ～ 29
2019	10	10 ～ 12	新造船の船内車両甲板を塗装する前工程として、車両甲板天井の梁部を研磨するため、被災者が単独で高所作業車の作業床に乗り、作業床上の操作盤を操作していたところ、操作盤と車両甲板の天井の梁との間に胴体をはさまれ、死亡したもの。	11501	7	1～ 9
2019	9	14 ～ 16	市道で橋梁の点検作業に使用する高所作業車が坂道を逸走し、同作業のため交通整理にあたっていた警備員に激突したものである。	170201	6	30 ～ 49
2019	4	20 ～ 22	建築現場駐車場において、高所作業車を使用してケーブルラックを設置するための準備作業を行っていたところ、当該作業車が転倒し、被災したものの。	30201	1	1～ 9
			発注見込みの伐採作業の打ち合わせ、現地確認のため、被災者は自らが			

2019	2	10 ～ 12	<p>運転していた高所作業車を停車し、車両から降りたところ、車両が後退しこれを止めようとしたが、車両と電柱の間に挟まれ死亡した。付近の道路の勾配は0度から5度だった。サイドブレーキは引いておらず、輪止めは使用していなかった。</p>	30301	17	10 ～ 29
2019	2	8 ～ 10	<p>高速道路に設置してあるプルボックス内の光ファイバーケーブルの接続切替作業を行っていた。作業者と作業指揮者である被災者の2名で高所作業車の作業床に搭乗し、作業者がプルボックス内のケーブル切替作業を行っている時に、高所作業車の作業床が上昇し、被災者が高さ4.875メートルの橋桁下部とバケットの間に挟まれ負傷した。</p>	30301	7	100 ～ 299
2020	9	14 ～ 16	<p>設備改修工事において、物流センター倉庫天井への墨出し作業を高所作業車の搬器上で一人で行っていた被災者は、約5m下の床面に転落し頭がい骨骨折、脊髄損傷により死亡した。ヘルメット、墜落制止用器具は着用していた。</p>	30203	1	1～ 9
2020	9	14 ～ 16	<p>高所作業車にて塗装作業中、高所作業車と鉄骨の間に頭部を挟まれたものの。</p>	40301	7	10 ～ 29
2020	7	20 ～ 22	<p>工場火災により生じた壁のすす等の除去を請け負った事業場の労働者が高所作業車を使用して作業を行っていたところ、突然被災者の作業箇所付近に設置された天井のスプリンクラーが作動した。異変に気付いた同僚がスプリンクラーを停止させ、高所作業車のバケットを地上から操作し、降ろしたが乗っていた被災者はすでに意識が無く、搬送された病院で死亡が確認された。</p>	30309	3	10 ～ 29
2020	6	10 ～ 12	<p>住宅の修繕作業終了後、傾斜地に設置した高所作業車のアウトリガーの格納作業中、車両後部の操作装置を操作しアウトリガーの格納を終えたところ、車両が後方に動きだし、被災者を押したまま約15メートル自走し停車した際、被災者が車両の下敷きとなったもの。</p>	30209	7	1～ 9
		14	<p>工区延長4780mのずい道建設工事の切羽後方において、ずい道の延伸に伴い、工事用照明を追加する作業が行われていた。作業は単独で、</p>			10

2020	5	～	被災者は使用していた高所作業車のバケットとトンネルの天端の間には	30102	7	～
		16	さまれた状態で発見された。切羽は坑口から3679m。作業が行われていたのは切羽の後方42mの付近であった。			29
2020	1	10 ～ 12	ずい道の坑内にて防水シートを貼る作業を、高所作業車で行ってた。 ずい道の天端部から、次の箇所に作業床の位置を移動するため、作業床を降下しようと、起伏の操作レバーを操作したところ、誤って同レバーを操作してしまった。これにより、高所作業車のブームが起き上がったことで作業床が上昇し、被災者はずい道の天端部のコンクリート面と、高所作業車の作業床の手すりの間に頭部を挟まれたもの。	30102	7	1～ 9

出典：[https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen\\_pg/SIB\\_FND.aspx](https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx)(職場のあんぜんサイト)

Return to [https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206\\_05.html](https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_05.html)